ナウマン通信

２０２０年
１２月１日発行
第２６号
大阪市立我孫子南中学校

師が走る！

　早いもので２０２０年もあと１ヶ月となりました。今日からいよいよ１２月です。あわただしい１年の締めくくりをむかえます。１２月のことを皆さんも知っているように「師走（しわす）」といいます。なぜそんな呼び方をするのか簡単に紹介したいと思います。

　「師走」はもともと旧暦の「12月」を指す言葉です。具体的には今の12月末から2月上旬ごろを指すのですが、今では陽暦の12月の異称としても親しまれています。

「師が走る」という字面から、まさに年末の慌ただしい気分までうまく表した言葉のように思えますが、この漢字は「当て字」ともいわれ、語源も諸説あってはっきりしないのです。語源として有名なのは、師走の「師」は僧侶であるという説。かつては冬の季節、僧侶を招いて読経などの仏事を行う家が多かったため、お坊さんが東西に忙しく走り回ることとなり、「しがはせる」から「しはす」になったといいます。この説は、平安時代末期

に成立した古辞書『色葉字類抄』に「しはす」の注として書かれているのですが、この説をもとに、のちに「師走」の字があてられたと考えられます。また、「師馳せ月」が誤って「師走」になった、という説もあります。師が忙しく走り回る説にはバリエーションがあります。また、12月は「年が果てる」ことから「年果つ（としはつ）」といい、それが変化したという説や、四季の果てる月を意味する「しはつ（四極）月」が変化した説、「しおえる、やりとげる」ことを指す「為果つ」が変化した説などがあります。また、奈良時代の書物で12月に「しはす」と読み仮名をふったものがあり、12月をしはすと呼んでいて、のちに字が当てられたともいわれます。正しい語源ははっきりしませんが、いずれにしても年の終わり、季節の終わりを意識した12月ならではの由来が多いところがおもしろいですね。

なんにせよ世の中は１年の締めくくりに向け、あわただしい毎日になります。交通事故も多く起こるときです。こんな時だからこそみんなには落ち着いて行動をしてほしいと願っています。学校も２学期の大きな行事も終わり、あとは懇談会で保護者のみなさんと今学期を振り返ることとなります。まだまだ厳しいコロナに負けることなく新しい１年のスタートを迎えられるように価値のある１２月にしていきましょう。